

利尻島におけるイナバヒタキ *Oenanthe isabellina* の初記録

佐藤里恵¹⁾・小杉和樹²⁾・川崎康弘³⁾

¹⁾ 〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杓形字栄浜

²⁾ 〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杓形字富士見町

³⁾ 〒 099-3452 北海道斜里郡小清水町浜小清水 72-25

An Observational Record of *Oenanthe isabellina* from Rishiri Island

Rie SATO¹⁾, Kazuki KOSUGI²⁾ and Yasuhiro KAWASAKI³⁾

¹⁾Sakaehama, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

²⁾Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

³⁾72-25 Hamakoshimizu, Koshimizu-cho, Shari-gun, Hokkaido, 099-3452 Japan

Abstract. One Isabelline wheatear, *Oenanthe isabellina*, was observed at Kutsugata, western area of Rishiri Island, northern Hokkaido, on 2 July 2006. This was the first record of the species from Hokkaido.

イナバヒタキ *Oenanthe isabellina* はトルコからロシア南部・モンゴル・中国北部で繁殖し、冬季はアフリカ中部および東部からアラビアを経てインド北西部に渡るサバクヒタキ属の1種である(五百沢ら, 2004)。筆者の一人である佐藤は2006年6月2日15時頃、北海道利尻郡利尻町杓形にある杓形港付近の空き地において見慣れぬ鳥1羽を発見し、約5分間の観察と写真撮影を行った。その後、筆者らによる詳しい検討が行われた結果、この鳥がイナバヒタキと判断されたのでここに報告する。なお、本報をまとめるにあたり、識別に関して多くの御助言をいただいた帯広畜産大学名誉教授の藤巻裕蔵氏、山階鳥類研究所の尾崎清明氏・茂田良光氏、そして亀谷辰明氏に厚くお礼申し上げる。

利尻島杓形で観察された個体(図1-3)は単独で、シロツメクサやセイヨウタンポポなどの丈の低い草本がまばらに生える砂礫地を跳ね歩きながら、小石の脇などにいる昆虫類を採餌しているようだった。上面がベージュ色で、地上での胸を反ったような姿

勢が見られ、尾は長めで白く、先端部分が黒であった。これらの行動や容姿からサバクヒタキ属の1種であり、更に初列、次列風切の褐色味が強いことから第1回冬羽であると考えられた。

個体の体上面は灰色味を帯びた赤～黄褐色で、体下面は白色、眉斑が認められ、頬から胸および脇は橙褐色であった。これらの特徴から、イナバヒタキまたはハシグロヒタキのどちらかであると考えられた。

イナバヒタキとハシグロヒタキは酷似するが、1) 尾羽先端にハシグロヒタキに見られるような細い白色が確認できず、黒褐色が見られること(高野, 1984)、2) 目先の黒色部がよりしっかりしていること(五百沢ら, 2004; Jonsson L., 1992)、3) 雨覆先端にバフ帯があり、もっとも外側の小翼羽と三列風切の黒褐色が目立つこと(五百沢ら, 2004; Svensson L., 1992)、4) 近くに降り立ったカワラヒワと比較して本個体の体長は15-16cmと推定されたこと、以上の点からイナバヒタキであると考えられた。これまでに利尻島および北海道に



Figs 1-3. Isabelline wheatear *Oenanthe isabellina* observed at Kutsugata, Rishiri Island, on 2 July 2006.

においてイナバヒタキが確認されたことは筆者らが知る限りないため（小杉，2000；藤巻，2000），今回が北海道におけるイナバヒタキの初記録と思われる。

サバクヒタキ属の国内での記録は，イナバヒタキ，ハシグロヒタキ *O. oenanthe*，セグロサバクヒタキ *O. pleschanka*，サバクヒタキ *O. deserti* の4種が報告されている。これまでの記録によると，イナバヒタキは南千島，本州，対馬で，ハシグロヒタキは北海道，本州，対馬，小笠原諸島，硫黄列島にて，セグロサバクヒタキは北海道，本州，舩倉島，対馬，そして，サバクヒタキは本州，舩倉島，四国，小笠原諸島，奄美諸島においてそれぞれ確認されている（日本鳥類目録編集委員会，2000）。利尻島におけるサバクヒタキ属の飛来記録にはハシグロヒタキ（田牧，1997）とセグロサバクヒタキ（小杉，1991）があり，今回の観察によって3種3個体が同島から確認されたこととなった。

参考文献

- 藤巻裕蔵，2000. 北海道鳥類目録 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室. 83 pp.
- 五百沢日丸・山形訓男・吉野俊幸，2004. 日本の鳥 550. 山野の鳥. 増補改訂版. 文一総合出版. 383 pp.
- Jonsson L., 1992. Birds of Europe with North Africa and the Middle East. Christopher Helm A&C Black London. 397-401 pp.
- 小杉和樹，1991. 利尻島で観察された希少種の記録. 日鳥学誌, 40: 36-40.
- 小杉和樹，2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅（編），北海道 島の野鳥. 150-155 pp. 北海道新聞社. 札幌.
- 真木広造・大西敏一，2000. 日本の野鳥 590. 平凡社. 655 pp.
- 日本鳥類目録編集委員会，2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会，京都. 345 pp.
- Svensson L., 1992. Identification guide to European Passerines. Fourth, revised and enlarged edition. Stockholm. 126-129 pp.
- 高野伸二，1984. 野鳥識別ハンドブック. 財団法人日本野鳥の会. 334 pp.
- 田牧和広，2002. 利尻島における鳥類の新分布および希少種の記録. 利尻研究, (21): 49-53.